

Vine

ワイン科学研究センター

先端研究を通じ、ワインやブドウの
スペシャリストを育成する、
国内唯一の研究センター

[人物発掘]

佐藤哲也 准教授

(工学部先端材料理工学科)

(大学院医学工学総合研究部工学学域物質工学系/
先端材料理工学)

[びっくあっぷレッスン] 英米文化講読B

[ゼミ紹介] 工学部機械工学科 武田研究室

サークル紹介/クローズアップビーふる/気になるお店





ワイン科学研究センター

先端研究を通じ、ワインやブドウのスペシャリストを育成する、国内唯一の研究センター

<http://www.wine.yamanashi.ac.jp/index.html>



ワイン科学研究センター

<ワイン科学研究センターの歴史と特徴>

山梨県は明治時代の日本ワイン創生期からワイン醸造に取り組み、日本ワインの発祥地として常に日本のワイン産業をリードしてきました。その山梨県に居を構える山梨大学には、ワインとワイン醸造用ブドウを専門に研究する国内唯一のユニークな研究機関「ワイン科学研究センター」があります。ワイン科学研究センターは長い歴史を持っています。昭和22(1947)年、山梨大学工学部の前身である、山梨工業専門学校に、附属発酵研究所として設置され、昭和25(1950)年、学制改革にともなって山梨大学工学部附属発酵化学研究施設と改称されました。平成12(2000)年、発酵化学研究施設を廃止し、新たにワイン科学研究センターとして再発足されました。発酵研究所と発酵化学研究施設の時代には、わが国のワイン産業に寄与することを目的として、ワインと醸造用ブドウに関する微生物学および生化学的研究を地域と密着して行ってきました。現在では、世界的視野に立ち、先端的な細胞工学や遺伝子工学技術、微量分析技術などを駆使した基礎研究から、最新のブドウ栽培技術やワイン醸造技術の実用研究までを包括する研究センターに成長しています。



地下セラーには1951年に醸造された甲州ワインが眠っている

研究センターに成長しています。

<ワイン科学研究センターにおける研究>

ワイン科学研究センターは、以下の3つの研究部門を有しています。

発酵微生物工学研究部門では、ワイン醸造に用いる酵母と乳酸菌の分類、有用菌株の育種や利用法について研究を行っています。そのひとつの成果として、海水から分離した酵母「海洋酵母」があります。海洋酵母で発酵したワインは香りの良い、甘めの味わいで女性に人気が高いワインとして、毎年品切れになるほどです。

機能成分学研究部門では、ワインの色や味、そして香りといった、ワインを語る上で欠かすことのできないワインの性質について、化学的視野から研究を進めています。現在、ワインの性質・品質に影響する、興味深い化合物をいくつか同定し、その合成系の解明を進めています。また、それら化合物のうち、人間の健康維持に大きな影響を与える化合物について、医学部と共同で研究を行っています。

果実遺伝子工学研究部門では、ブドウの色や香りといった、果実成熟メカニズムの解明などの基礎研究から、減農薬ブドウ栽培、省力ブドウ栽培に向けた応用的な取り組みまで、幅広く研究を行っています。現在、精力的に進めている「甲州ブドウの全ゲノム解析」は山梨県の特産品である甲州ブドウの特徴を遺伝子レベルで把握し、甲州ブドウの品質向上に役立てることを目指しています。



ガスクロマトグラフィー質量分析によるワインの香り分析



日本のワインに合う優良酵母の分離と選抜



ワイン中に含まれる機能性化合物の分離と同定

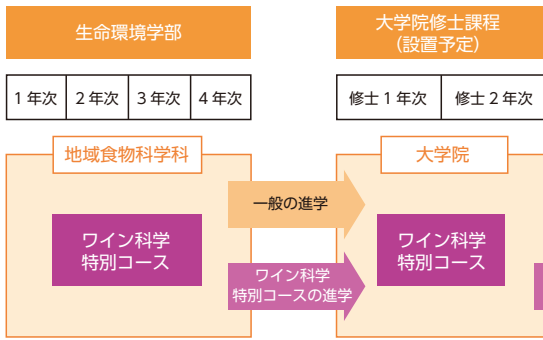


有用微生物を用いたブドウ病害防除法の開発

<ワイン科学研究センターにおける教育>

ワイン科学研究センターでは、これまで山梨大学工学部ワイン科学特別教育プログラムの学生に対し、学部1年生から修士課程終了までの6年間、ブドウやワインに関する高度な専門知識と技術力を持つスペシャリストの育成を目指した教育に努めてきました。ワイン科学特別教育プログラムは、平成24年度から生命環境学部地域食物科学科ワイン科学特別コースに移行しました。

ワイン科学特別コースでは、引き続き、ブドウやワインに関する高度な専門知識と実践的な技術力を備え、ワイン製造に熱意を持った技術者・研究者の育成を目指しています。ワイン科学特別コースの学生は、地域食物科学科の講義を受講することにより、果樹・野菜の栽培および食品製造に関する幅広い知識を習得します。さらに、学部1年生からブドウやワインに関する専門の講義を通して、ブドウやワインに関する最先端の知識と技術を学び、ブドウ栽培実習、ワイン製造科学実習、山梨県内のワイナリーでブドウ栽培やワイン醸造の現場を体験するインターンシップなどの実習を交えて、実践に即した応用力を養うことを目指しています。



[ワイン科学特別コースの教育モデル]



ワイン科学特別コースの1期生が管理するブドウ畑。秋にはブドウを収穫し、ワイン醸造実習に使用する



ブドウ栽培実習 一誘引作業—



ワイン科学特別コース1期生



ブドウ栽培実習 一笠かけ作業—

ワイン科学 特別コース 1期生6名からの メッセージ

- 日本で唯一のワインを学べる学科!興味のある人はぜひ!一緒に勉強しましょう!
- 毎日の食事が楽しくなる学問を学べます。そして、ワインだけでなく、他の食品にも通じる知識が習得できますよ。
- 地元の山梨県に貢献できる最高の学びの場です!
- ワインやブドウを身近に感じることができて、とても楽しいです。
- ワインやブドウについて深く知ることができます。6人しかいませんが、勉強が楽しすぎます。
- 少数ですが、和気あいあいとしたコースです。ワイン科学特別コースで勉強して、家庭でも社会でも役に立つ知識を学びたいです。



ボルドー大学ワイン醸造学部ルベル教授による官能評価の講義

ワイン科学研究センターは、ワイン科学特別コースに加え、地域に根付いた教育プログラムを有しています。そのひとつが、「ワイン人材生涯養成プログラム」です。このプログラムでは、将来、山梨県を中心としたワイン業界での活躍を希望する修士課程学生のためのプログラムとすでにワイナリーなどでブドウ栽培・ワイン製造に関わっている社会人の方のためのプログラムを用意しています。国内外の一流の講師の授業・実習を受講し、ブドウ栽培・ワイン製造のエキスパートとなるための知識と経験、ワイン販売等に必要な法的知識など、幅広い応用力を養います。これらプログラムの修了者は「山梨大学ワイン科学士」の受験資格を得ることができます。現在までに輩出した37名の山梨大学ワイン科学士達は、日本のワイン産業をリードする人材として活躍しています。

佐藤哲也准教授

(工学部先端材料理工学科)(大学院医学工学総合研究部工学
学域物質工学系/先端材料理工学)

天体少年だったころから手づくりの装置の向こうに、
輝くサイエンスの地平線を、ずっと追いつけてきた佐藤哲也先生。
装置で半分を占める先生の小さな研究室を訪ねてみよう。
そこには、過去から未来につながる、サイエンスの大きな物語りが流れている。
大人になった天体少年が、研究へのあふれる想いを語ってくれるはず。



はじまりは、少年時代 ふるさとの空を仰いだ 手づくりの望遠鏡

現在の山梨県甲州市、東京オリンピックの年生まれで、田舎で育ちましたから、まわりは自然が豊かで、星もきれいでした。それで、「天体少年」っていいですか、昔の彗星を発見する物語りなんかを読んで、刺激されて、自分で考えて望遠鏡を作ったりしてました。小さな小学校でしたから先生が東京の五島プラネタリウムに連れてってくれたり、そんなこともプラスに働いたんでしょうね。小学校低学年の頃は先生の脇に机を置かれていたような、やんちゃな子どもでした。中学生になると、専門誌なんかの知識から、眼鏡屋さんに行って「このレンズを下さい」って、でもお店の人にも分からない。それでキットを取り寄せてもらって自分で組み立てて、それが良く見えたもんだから、よけい深みにハマっていたんですね。

好きなことだけにハマって やりたい放題、 そして浪人

高校は地元の日川高校で、一年の時は小学校からやってた剣道部、二年から地学部に入って、それからは、やりたい放題。大菩薩や富士山に登って、ほとんどワンダーホーゲル部みたいなものでした。教科では、やっぱり理科とか数学かな。人文社会系の暗記するものや地図とかは苦手でした。覚えること中心の授業って、不思議になって深みにハマっていると授業には置いてかれてしまうから、ストレスがたまります。そんな感じで勉強もなかったんで、浪人して、その予備校時代に物理の面白さを知ったんですね。教えに来てくれた大学の先生が、受験の物理というより、もっと深いところを教えてくれた。漠然と、物理に行けば何か面白いことがやれそうだと、感じました。

アルバイトの 「宇宙科学研究所」 研究室の空気を 初めて知って、ときめいた

大学二年の夏、先生が「宇宙科学研究所」のアルバイトを紹介してくれてね、当時は駒場東大の近くであって、河島信樹先生を中心に、スペースシャトルから「人工オーロラ」を作るというプロジェクトをやっていました。今、三鷹の国立天文台で進められている「重力波」の研究の最初のところも当時していました。国の機関ですから、おっきなプロジェクトばかり。敷地内にロケットの打ち上げ試験をしている管制室なんかもあった。何をやってるのか良く分からなかったけど、バイト代だって安かったけど、楽しくって行ってきたね。昼食のあと壁打ちでテニスする人がいたり、夕方になるとバトンミントンしたり、非常に自由な雰囲気ななかで、みなさん楽しそうに研究をしていた…。そういう経験を、まだ大学二年生の早い時期にできたというのも、たまたま学科の先生が、宇宙研にいた東大の先生たちの昔の仲間だったから。研究者のつながりの大事さ、というのを感じました。



未知の世界を きりひらくため、「装置」を、 ふたたび、手づくり

四年生で入った研究室は、物理の中でも「物理化学」という、物理と化学の境い目のような分野。化学反応を原子や分子のレベルで追求するということをしていました。オープン層で起きている反応を特殊な装置を作って調べるといったことをしてたんですが、日本の科学者の田中耕一さんが「質量分析装置」を使ってノーベル科学賞をとられた、それと類似のことを、今思えば、僕らも研究室でしてたんですね。六年ぐらい装置にへばりついて研究してましたが、結局、何か新しいことを調べたい時、やはり「装置」で決まってしまうんですね。その、装置を作ることの重要さと、それを使って新しい知見を得るということをカラダで覚えました。それから、装置を作ってオリジナルな研究をして、それが重要であっても、認知されるには時間がかかるということ。だから、それを主張し続けること、継続してやるエネルギーが非常に大事なんだと実感しましたね。

この山梨大学から 一緒に、「先端」をつくろう

こちらに来て一番最初にしたのが、やっぱりこの「質量分析装置」を作ることでした。コレがちょっと特殊で、 -263°C という「極低温」の状況を作ることができます。常識的には化学反応は高温で進むものですが、実は低温でも「トンネル反応」という特殊な反応が起こるんです。これで宇宙空間における暗黒星雲や物質進化の解明など、いろんな面白いことを調べました。そこから十年ほど、今ようやく太陽電池の「半導体薄膜」への応用というところに辿りついてます。極低温での物質

合成というのは今までに例がなく、環境、エネルギーといった問題にも非常に期待できる、そういった「先端材料」を、この山梨大学で開発しようということを、今日論でます。しかし、このように研究が表に出てくるまでには三十年近くかかるわけです。「先端材料理工学科」では、まず物理、化学、数学といったベースとなるサイエンスをしっかり身につけて、どんな風にも応用していける息の長い研究者、技術者を育成しようというのが目的です。



SATO Tetsuya



大学は、ゼロから自分で 自分をつくる場所

大学の研究というのは、既にやられてることはやりません、やらない所をやるわけですから、その点で教員も学生もありません。基本的にはぜんぶ自分で計画してやるのが大学とか大学院の学生だと思って欲しい。科学にかぎらず、どんな分野であっても、未知の領域に取りくむ時、何が必要かという、基礎学力、バイタリティ、そして考える力。それから、簡単なことでも、ぜんぶ自分で手を足を動かしてやること。その基本はやっぱり「知りたい」とか「すごい」とか「感動」とか、小さな頃から、身のまわりの自然に触れ、いろんな現象に触れるといった、生きた知識だと思います。

四年間を充実させるため
自分で努力して
カリキュラムの枠を
どんどんはみ出して欲しい。

【略歴】

- 1988年3月 東京農工大学工学部応用物理学科卒業
- 1990年3月 東京農工大学大学院工学研究科応用物理学専攻修了
- 1993年3月 東京農工大学大学院工学研究科博士後期課程電子情報工学専攻修了
- 1991年4月 日本学術振興会特別研究員(-1993年3月)
- 1993年4月 山梨大学助手(工学部)
- 2001年4月 山梨大学助手(クリーンエネルギー研究センター)
- 2001年7月 山梨大学准教授(クリーンエネルギー研究センター)
- 2003年4月 新潟大学大学院理学研究科非常勤講師
- 2004年4月 新潟大学理学部非常勤講師
- 2006年4月 山梨県客員研究員(富士工業技術センター)
- 2007年4月 山梨県客員研究員(富士工業技術センター)
- 2008年4月 新潟大学理学部非常勤講師
- 2012年4月 山梨大学准教授(大学院医学工学総合研究部)

【専門分野】

物理化学、プラズマ、薄膜・表面、ナノ・機能材料

【研究テーマ】

1. 水素原子の関与する極低温トンネル反応の解明
2. 次世代型太陽電池および半導体薄膜の低温合成
3. 温室効果ガスの低温分解と機能性薄膜への変換





[担当教員]
奥村直史 准教授

[到達目標]

英米文化講読Bはアメリカの短編小説を読んで時代背景を考察しつつ作品を分析し、独自の視点から作品を読み、分析した内容を論旨の一貫したレポートとしてまとめられることを目標とします。

[授業の概要]

この授業は国際文化コースの2年生から4年生を対象に開講されるコース専門科目です。

アメリカの短編作品を読んで、それについて皆が議論することにより授業は進みます。

まずは先生が選んだ作品に予め目を通し、気が付いたことや分からなかったことなどをどんどん抽出していきます。また、作品の外からの情報として、作者の経歴や、執筆された時代についても調査します。それらを踏まえ、作品を分析していきます。現代文の設問を自分で作り、自分で解答す



英米文化講読B

という表現が分かりやすいかもしれません。続いて授業では始めに和訳を行い、英語の文法や単語、構造なども質問があれば皆で解決してから、いよいよ内容に踏み込みます。「この語が反復して用いられているのはこういう意味がある」、「天候の描写が人物の心情を反映している」、「作品が書かれた時代背景を鑑みるとこう言える」など、自分の「分析」を提言し、皆で話し合っていきます。このとき、普段の読書から踏み出し、なぜそう考えられるかの根拠を見つけることが重要です。根拠がなければそれは『感想』で終わってしまうからです。まるで数学の証明で三角形ABCが二等辺三角形であることを証明するときに『三角形ABCは二等辺三角形である』とだけ述べるかのようです。とはいってもそれには多くの練習が必要です。こう考えるけれど、根拠が見つからない。そんなときはそう

尋ねてみます。すると皆の中から納得のいく根拠が挙がります。

自分一人では分からないところでも、授業を受けている学友から教えられる。分からないところを補い合いながら学ぶというのは、授業という場の特権であり、楽しみでもあります。また、当然自分では到底考え付かなかった「分析」を耳にすることも多くあるので、そういう考え方もできるのかと学んでいく上で大きな刺激になり、文学の深さを垣間見る瞬間です。授業の終わりのほうではまとめとして提出する、作品についてのレポートの草案を発表し、改善点を指摘します。それを受け、改善点を踏まえながらレポートを完成させます。

皆で到達目標に向かい、先生の出す助け船に乗りながら進んでいく授業です。

PICK
UP
LESSON





料を挿入した伝熱促進方法を取り入れるなど、環境に優しい自然の熱を利用した住宅設備に関する研究を行っています。最近では、空気熱を利用したヒートポンプにより給湯するシステムが実用化されていますが、さらに効率を良くするため地中熱を利用したヒートポンプの研究を進めています。

熱や流体の移動現象を調べ、 熱エネルギーの有効利用に役立てる

熱という身近なエネルギー

熱や気体などの流体の移動現象は重畳して生じることが多く、自然界のあらゆる場面で見られることから私たちの生活と深く関わっています。例えば、化石燃料を燃焼させて得られる熱を利用して、水を蒸気に変え蒸気タービンにより発電する、太陽熱あるいは地熱を利用して発電する、など、私たちは熱という形のエネルギーを利用していることが分かります。ところが、この熱エネルギーを利用しやすい例えば電気エネルギーに変換しようとするとその半分以上のエネルギーを損失して環境に捨ててしまうことが多いのです。また、地球の温暖化に関しても熱流体の移動現象が深く関わっており、太陽によって地球表面が暖められていますが、二酸化炭素に代表される温室効果ガスによって、宇宙への

放熱が抑えられて、さらに地球が暖められています。このように、熱や流体の移動現象を解明し、それを制御することは、地球の温暖化防止や熱エネルギーの有効利用など、将来の環境とエネルギー問題を解決するためにとても重要です。

ゼミ生の研究テーマ

以上のことから、研究室に所属している学生は、熱エネルギー変換や利用に関する種々の研究テーマに取り組んでいます。幾つかの具体例を挙げると、住宅にスパンドレルと呼ばれる凹凸面を持った壁を設置し、それを太陽熱集熱器として冬は暖房に夏は太陽熱を遮蔽する冷却流路として利用する、また、その太陽熱を効率良く取り出すため、ポンプなどを使用せずに気体の密度差を利用した自然対流による冷却方法や多孔性材

また、温泉の熱を用いた微小温度差熱エネルギーを利用するシステムとしてペルチェ素子とヒートパイプを組み合わせた発電システムや沸点の低い流体の蒸気を利用したバイナリー発電システムによる高効率熱エネルギー利用技術の研究を進めています。この他、海外でも研究が進められている高温の熱を取り出す次世代型原子炉の安全性に関する研究も行っています。

ゼミ生の進路

研究室内の半分以上の学生は、さらに、研究を進めるため修士課程に進み、その後はエネルギー変換や利用に関する分野として、電力会社や重工業、電機関係の企業や研究所に就職しています。研究室での研究活動、学生同士の情報交換、国内外の学会発表やイベントへの参加、他大学の学生との交流を通して、それらの経験が将来役立てられることを期待しています。





フットサルサークル JIMMOTY



こんにちは!フットサルサークルのJIMMOTY(ジモッティー)です!
JIMMOTYは、毎週金曜日に穴切小のグラウンドで活動しています。「JIMMOTYって初めて聞いた!」そんな人が多いと思うので、ここでJIMMOTYの歴史を紹介したいと思います☆実は!JIMMOTYは創立して今年で4年目の、まだまだ出来たばかりのサークルなんです。

始まりは現在私たち4年生が、入学と同時に「新しいサークルを作りたい!」と考えたのがJIMMOTYの始まりでした。最初は活動できる場所もない、人数が少ない等の問題が山積みで、本来の活動であるフットサルを行うことができませんでした…。しかし仲間全員で協力してサークル創立に関わったことで、穴切小というホームグラウンドを手に入れ、今では所属している人数が20名!毎週楽しく活動することができます☆ここでなぜサークルの名前がJIMMOTY(ジモッティー)なのか?それは、当初は地元甲府出身の人たちで始めたサークルだったからです。しかし今では色々な県の出身の人がJIMMOTYには所属していて、むしろ地元民は影を薄めています…。ってことなのでどんな人でも歓迎です!正直JIMMOTYにはサッカー経験者は数えるくらいしかおらず、大半が初心者で構成されているんです。でも決して、

**つまらないサークルなんてことはありません!
なぜなら全員がサッカーが好きだからです!
決してサッカーが上手なサークルではありません。
でもみんな本気で活動しています!**

なので初心者なんだけど本気でサッカーがしたい…って人は大歓迎です☆そして経験者の人も大歓迎です☆なぜなら、上手い人の技術は勉強になりますからね(笑)そして先輩だから偉いとか、後輩だから活動しづらいなんてことはありません。むしろ先輩、後輩の関係はほぼ無ですね。みんなタメの友達って感じです☆サークル創設者としては、これからも長くJIMMOTYが続いていけばいいな…そう思う毎日です。



**これからのJIMMOTYを
輝けるサークルに
していってくれる、
サッカーが大好きなあなたを
待っています!**





につながった時の喜びは計り 知れません!

「背が低いから」というのはバレーボールをやらない理由にはなり得ません。ネットに届かずともスパイクだけがバレーボールではないので大丈夫です。確かにスパイカーは派手で、目立って、カッコよくて、花形かもしれませんが、会場が一体となって湧くのは、強烈なスパイクが決まった時よりも、その豪快なスパイクをスーパーレシーブであげた時なのです。(某マンガより引用。わたしもそう思います。)また、小学生のちびっこからママさんまで幅広い年齢層の人たちが楽しんでいる生涯スポーツです。はじめやすいスポーツだと思います。

こんにちは、山梨大学医学部男子バレーボール部です。わたしたちは現在、プレーヤー12人、マネージャー10人で活動しています。練習は医学部キャンパスの体育館で、毎週月・水・金曜日の週3回、それぞれ2時間ずつ行っています。大会にも積極的に参加していて、順に春季医科リーグ、県内戦、春季医歯薬リーグ、東医体、秋季医科リーグ、県内戦、秋季医歯薬リーグ、新人戦と、1年のうち8回参加しています。

これらの大会でよい成績を残すために、練習に励んでいます。中でも夏に行われる東医体(東日本医科学生総合体育大会)はここで引退という節目の大会でもあり、どのチームもこの大会に照準を合わせて集大成をぶつけてきます。東日本の大学の医学部チームが一堂に会い、会場は他の大会とは違った雰囲気、盛り上がりも最高となり、1年の最大イベントです。また、わたしたちバレー部はサークルではなく部活動であるため、毎回の練習は常に全力で取り組んでいます。

多くの人が体育の授業などで1度は経験したことがあるかと思いますが、バレーボールはとても楽しいスポーツです。1チーム6人、全員で1つのボールを落とさないようにつなぎ、得点を重ねていきます。

**チームの誰かが全力で
レシーブした1本が得点**

わたしたちバレーボール部はプレーヤー、マネージャーともに仲が良く、先輩、後輩どうしに必要な上下の関係は保ちながらも、みんな和気藹々としたとてもよい関係が築かれています。

誰もが親しみやすい

**アットホームな雰囲気
わたしたちの部の
魅力です。**

山梨大学医学部に入学したら、ぜひ1度バレー部に遊びに来てください!



医学部男子バレーボール部

〈サークル紹介〉

医学部

CAMPUS

close-up people

◎医学部看護学科 2年生

新井智恵さん

いろんな人と
語ることが
自分の人生の
豊かさにつながる
と実感。

自己紹介をお願いします。

新井智恵です。埼玉県出身です。医ゼミに参加する会(医ゼミ)、サニースマイルというサークルと、山岳部に所属しています。好きなことは食べることで、お弁当を作ったり、友達と食べ歩きしたりしています。まじめだと思われていますが…意外とそうでもなく、おちゃめなところもたくさんあります!



高校の仲間と山へ

サークルでは
どんな活動をしていますか?

医ゼミは、全国医学生ゼミナールの略で、夏に全国から医療系の学生が集まり企画を作ります。学生主体の学術企画としては日本最大で、いろんな大学の人と仲良くなれるのがとても楽しいです。また、授業や実習で学んだことや考えたことを全国の人と共有することができるのが醍醐味です。

サニースマイルは、小児科病棟ボランティアで、大学病院の小児科に入院する子供たちと遊びます。面会時間が終わった



後の寂しい気持ちや寝る前の不安な気持ちに寄り添い、全力で遊びます。子供たちからは笑顔をたくさんもらえ、たとえ授業で疲れ切っていても子供たちと会うと元気になれます。

大学生活はどうですか?

大学生活は良くも悪くも自由な時間がたくさんある気がします。私は、その自由な時間を勉強やいろんな人と遊んだり話したりする時間に使っているけれど、自分が大切だと思ったことをやるのが結局が一番いい時間の使い方だと思っています。私は最近、いろんな人と語ることが自分の人生の豊かさにつながると実感しています。同学年の友達や先輩、そして他大学の学生などと時間をかけて語ることで、今まで見えていなかった自分の姿に気付くことができたり、これからどう生きていくか考えることができます。大学生活では勉強以外にも学ぶことがたくさんあるんです✳️また、私は家族と離れて暮らすことで、今まで以上に家族の大切さを感じることができました。今までも家族が大好きでした



実習室にて練習中…タオルを出しています

が、さらにこの大学生活の中で好きになっていきました。

大学生活満喫しているようですね。日々の生活をもう少し具体的に聞かせてください。

朝は、一人暮らしなので朝ごはんを作りながらお弁当を詰めます。自分のポリシーで、よっぽど忙しいとき以外は冷凍食品を使わず、なおかつポリウレタンなお弁当にします。勉強は極力学校にいるときしかしません。学校が終わったらバイトに行くか家に帰って映画を見ます。

2年の4月にバイトを始めたそうですね。

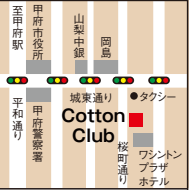
はい!大学の近くのカフェレストランで週に3・4日働いています。フロアで接客していますが、ケーキやカフェラテなどのドリンクを作ることもあります!また、お客さんには子供からお年寄りまで様々な年齢層の人がいますし、苦手なものがある人やハンディキャップを持った人もいます。そこで、自分には何ができるのか考えたり、スタッフの人とコミュニケーションをとったりすることが実は看護の視点にも生きていて、勉強になります。バイトを始めて一番よかったことは、まかないがおいしいことです☆

最後に、後輩に一言
お願いします。

大丈夫。できるよ。って伝えたいですね。何事も自信を持って自分はバカかって言うぐらい何かに没頭してみる。そんな時間をつくってほしいと思います。

Cotton Club

山梨県甲府市中央4-3-20 コリド桜町通り
[電話]055-233-0008
[営業時間]18:00~26:00 Last Order25:30
[定休日]月曜日
[駐車場]なし(近くにコインパーキングあり)



お酒落で自由度の高い空間

甲府駅前に伸びる平和通りを少し東に進むと、甲府駅前の喧噪とは一線を画すカフェレストランがある。中に入ると綺麗な照明と心地よいジャズが流れ、お酒落な雰囲気に包まれる。そんなCotton Clubはドリンク・フードともに全てが一律500円。帰りに一杯飲みたいとき、ちょっと御飯が食べたくなったとき…などなど、ちょっとした時に気軽に足を運ぶことができる。

Cotton Clubは只のカフェレストランではない。中にある大きなスクリーンを使ってサッカー観戦も楽しめ、時期によってはライブによる生演奏を聞きながら食事を楽しむという贅沢も出来る。また、店内には無線LANの設備も整っているためパソコンを持ち込んで使用することも可能だ。

さらに、事前に予約をすれば歓送迎会や結婚式の二次会などのパーティーも催すことが出来る。食事内容や形式など詳細に希望を伝えることが出来るので、きっと満足のいくものに仕上がるだろう。

お酒落でかつ自由度の高い空間、Cotton Club。記者は店を知って一年ほどになるが、これほど快適に過ごせる空間を知らない。読者の方も一度足を運んでみると良いだろう。

(医学部医学科2年 野崎祐香里)



お酒が多数。
バーコーナーには選りすぐりの

ドリンク・フードが全て500円。
(写真はチキン)



お酒落な雰囲気の店内。大型スクリーンも設置されている。

麺 革

山梨県甲府市武田3-7-1
[電話]055-251-5010
[営業時間]11:30~14:00 17:00~22:00
[定休日]月曜日
[駐車場]有



麺の革命と書いて麺革

麺の革命ここにあり

今回は、武田通り沿いにあるラーメン屋「麺革」を取り上げて頂きました。店内の雰囲気はとても清潔感があり、カウンター席とテーブル席があり広々としている。お客さんの多くは学生が多いが会社員の方や地域の方も多く、様々な方に愛されている。

ラーメンのほうはメニューが豊富で選ぶのも楽しい。また、どのラーメンを頼んでもおいしいのだが、おすすめは王道魚豚つけ麺である。魚介のスープと豚の旨みのコラボレーションが絶妙でとてもおいしい。魚介スープの独特のクセも無く、豚のあぶらっさも無く重たさはほとんどありません。麺も3ミリくらいあるのではないかと太麺でつくだれによくからんでとてもおいしいです。ラーメンかつつけ麺を頼むとご飯が食べ放題になるサービスがあり、ふりかけも多種置いてあり、いろんな味を楽しめるところも魅力の一つである。

また、毎月11日は麺革の日としてねぎ醤油そばと麺革味噌麺が半額となるサービスを行っており、とても魅力である。また日替わり100円メニューもあり、そちらも魅力である。美味しいラーメンを食べたかったら一度、足を運んでみてはいかがでしょうか。

(工学部機械システム工学科4年 辻 高明)



おしゃれな店内



王道魚豚つけ麺



麺革味噌麺

生命環境学部 設置記念式典を挙行

本学は、本年4月に4番目の学部として新たに開設した「生命環境学部」の設置記念式典、記念講演会及び記念祝賀会を、6月21日(木)に甲府市内で挙行了しました。

記念式典では、前田学長の式辞に続き、山中文部科学審議官、横内山梨県知事(代理)、田中中央市長、内閣府副大臣(元文部科学大臣政務官)後藤衆議院議員(代理)から祝辞があり、その後、早川生命環境学部長による、生命環境学部の概要説明がありました。

式典に続いて行われた記念講演会では、徳永国立教育政策研究所長及び小林山梨県理工学研究機構総長から、それぞれ「山梨大学における人材育成に期待する」、「環境が育む生命」と題した講演がありました。

記念式典には約200名、記念講演会には生命環境学部の第一期生約120名を含む約320名が出席し、生命環境学部のスタートにふさわしい盛大な式典となりました。



式辞を述べる
前田学長



祝辞を述べる
山中審議官



講演をする徳永所長



講演をする小林総長

「連続市民公開講座」 受講生募集中!

【日時・場所】

開催日:『スケジュール一覧表』参照
会場:山梨大学 甲府東キャンパス
A2-21教室

定員:330人
時間:午後1:30~3:00まで
(午後1時開場)

受講料:無料

【申込方法】

受講希望日・住所・氏名・年齢・電話番号を明記の上、下記のいずれかの方法で「山梨大学教務課連続市民講座担当」宛まで送付してください。(事前申し込みが無くても当日参加可能です。)

◎葉書・封書の宛先

〒400-8510
甲府市武田4-4-37
山梨大学教務課

◎電話の場合

TEL 055-220-8043

◎FAXの場合

FAX 055-220-8796

◎電子メールの宛先

koukai-kouza@yamanashi.ac.jp

題名は
「連続市民公開講座申し込み」

読売新聞甲府支局と共催で「絆~こころ豊かに、ともに生きる」と題した全10回の連続市民公開講座を開催しています。生物多様性やクローン技術、介護問題、減災対策など多岐にわたるテーマについて、分かりやすく解説します。

第4回まで終了していますが、これから開催される講座がありますので、ぜひご参加下さい。

【スケジュール一覧表】

	開催日	講義題目	講師
第1回	4月21日(土)	生命のつながりを守る ~地域と国際社会を結ぶ生物多様性~	渡邊幹彦 教授 (生命環境学部)
第2回	5月19日(土)	「お互いさま」の介護 ~高齢者と家族への支援とは~	新田静江 教授 (医学部)
第3回	6月16日(土)	放射線と私たちの暮らし ~正しく怖がり、上手に利用する~	村松 昇 教授 (生命環境学部)
第4回	7月21日(土)	スポーツ観戦論 ~「見させる」時代を考える~	加藤朋之 准教授 (教育人間科学部)
第5回	9月15日(土)	生命をつなぐ水 ~地球の未来を考える~	坂本 康 教授 (生命環境学部)
第6回	10月20日(土)	暮らしと微生物 ~目に見えない仲間に支えられて~	早川正幸 教授 (生命環境学部)
第7回	11月10日(土)	少子化と子育ての近未来 ~日本と西欧の歴史的経験から考える~	寺崎弘昭 教授 (教育人間科学部)
第8回	12月15日(土)	クローン技術の最前線 ~絶滅動物の復活は可能か?~	若山照彦 教授 (生命環境学部)
第9回	平成25年 2月16日(土)	薬を創り、育てる ~研究者、医師、市民の役割とは~	岩崎 甫 特任教授 (医学部)
第10回	平成25年 3月16日(土)	地震との付き合い方 ~人のつながりを活用した減災対策~	杉山俊幸 教授 (工学部)

編集後記

暑中見舞申し上げます。

3・11以降、私たちのメディアに対する意識は大きく変わったように思われます。新聞やTVは正しいことを伝えているのだろうか?何か隠していないのだろうか?という疑念。片やインターネットを見てもあちこちに流されるデマ情報や出所不明な重大情報など。今、私たちは情報を受け取るときに、自分の判断を必要とされています。あの日以降、私たちの周りに悲観的な、あるいは不安になる情報しか流れないような気がするの、もしかしたら、私たちがそういった情報に対して過敏に反応しているからかもしれません(自省をこめて)。目を転じれば大学改革の足音も聞こえてきます。世の中全体の沈んだムードの中で、この改革に対しての憶測もネガティブなものになりがちです。でも、もしかしたら、山梨大学が、あるいは日本の大学教育が発展するチャンスかもしれません。

正しいメディア・リテラシーを身につけることは読者の方のみならず私たち全員にとっての大切な課題ではないでしょうか。

Vine17号をお届けします。ささやかな情報ではありますが本誌の中から読者の方々の「未来」を見つけることができればこれに勝る喜びはありません。

広報誌専門委員会委員長 小畑文也



表紙作品の紹介
タイトル
「うめ」

名和志穂子
教育人間科学部
美術教育専修2年

山梨大学広報「ヴァイン」 August 2012 vol.17

発行者:山梨大学広報誌専門委員会

[本誌に関するご意見・お問い合わせ先]

山梨大学総務部総務・広報課広報グループ

TEL:055-220-8006 FAX:055-220-8024

E-Mail:koho@yamanashi.ac.jp

山梨大学ホームページ

<http://www.yamanashi.ac.jp/>



山梨大学
UNIVERSITY OF YAMANASHI



この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。